

# 福島第1原発事故から12年 現場を見た

東京電力福島第1原発事故の発生からもうすぐ12年。汚染水処理の解決や燃料プールの取り出しなど事故収束の道筋はまだ不透明な状況のもとで、事故現場では廃炉に向けて作業が進められています。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)



## 汚染水・テフリ…道筋見えないまま

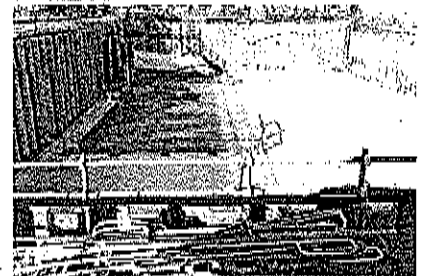
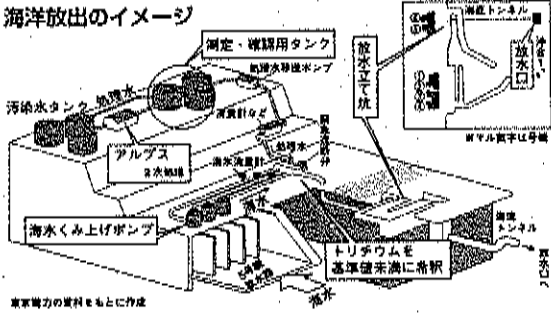
# 海洋放出へ急ぐ東電

巨大な穴  
汚染水処理の道筋が不明なまま、東電は海洋放出へ急いでいる。事故発生から12年、現場では廃炉に向けて作業が進められている。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)

## タンクが

東電は、汚染水処理の道筋が不明なまま、海洋放出へ急いでいる。事故発生から12年、現場では廃炉に向けて作業が進められている。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)

## 海洋放出のイメージ

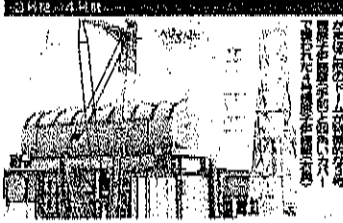
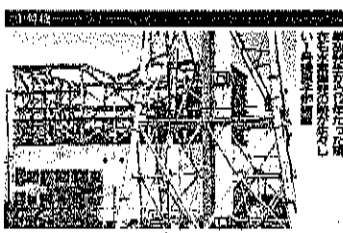


「放水立て机」の構築状況。上気水層を収めるための巨大な穴が掘られていた

東電は、汚染水処理の道筋が不明なまま、海洋放出へ急いでいる。事故発生から12年、現場では廃炉に向けて作業が進められている。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)

## 無謀美感

東電は、汚染水処理の道筋が不明なまま、海洋放出へ急いでいる。事故発生から12年、現場では廃炉に向けて作業が進められている。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)



東電は、汚染水処理の道筋が不明なまま、海洋放出へ急いでいる。事故発生から12年、現場では廃炉に向けて作業が進められている。1月、原発構内の合間敷村に参加しました。(中村秀生)